

音楽学習学会

第14回研究発表大会プログラム・要旨集

2018年8月26日(日)

椋山女学園大学 星が丘キャンパス

～ 第14回研究発表大会 概要 ～

期日：2018年8月26日（日曜日）

会場：椋山女学園大学 星が丘キャンパス 教育学部棟3F

最寄り駅：名古屋市営地下鉄東山線星ヶ丘駅（徒歩10分）

大会スケジュール

09:30～10:00	受付 教育学部棟3F
10:00～10:10	開会あいさつ（B307 教室）
10:10～12:00	シンポジウム（B307 教室）
12:00～13:00	休憩
13:00～13:30	2018年度総会（B307 教室）
13:40～16:40	研究発表（A～E 各会場）
17:30～	懇親会

参加費：

正会員・非会員一般：¥2,000，学生会員・非会員学生：¥1,000
（現職で大学院に在籍する場合は、正会員・一般の扱いとなります）

懇親会：

学内学食にて（参加費¥4,000，当日受付にてお支払い下さい）

会場案内

○会場へのアクセス

地下鉄「星ヶ丘」駅から椋山女学園大学 教育学部棟までの経路

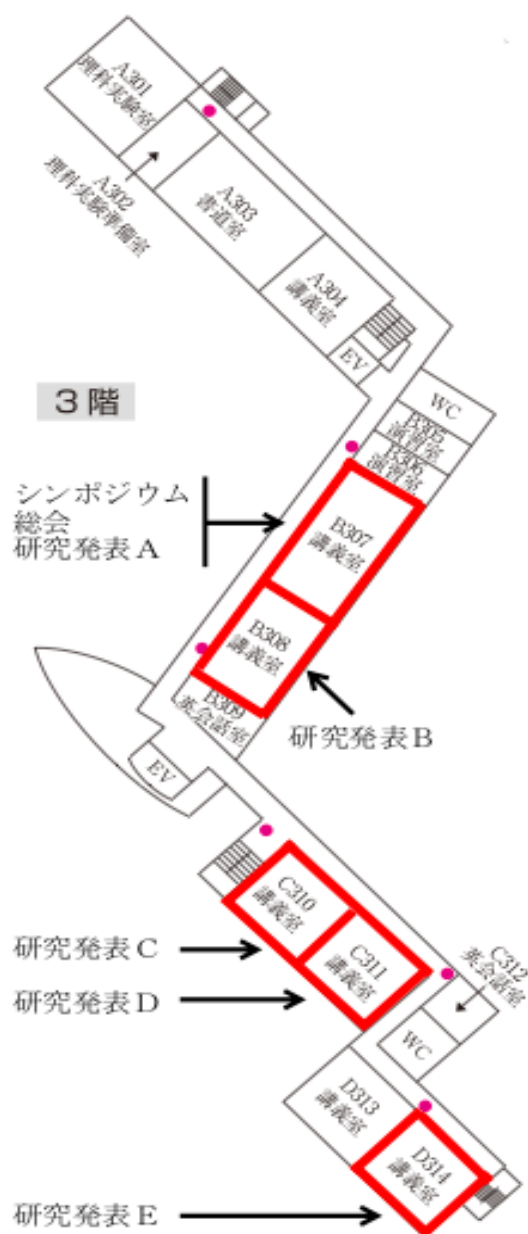


- ① 地下鉄「星ヶ丘駅」6番出口から地上へ（地図上のA）
- ② 地上に出たら左折し、そのまま信号まで直進
- ③ 前方左手に「星ヶ丘自動車学校」が見える信号を左折（手前の「無印良品 星ヶ丘店」の店の前エスカレーターを3階までのぼって右折しても、信号左折後の道に合流することができます）
- ④ 左折して20mほど先の左手路上のエスカレーター（日曜日休止）を見ながら坂をのぼる（エスカレーターあたりが地図上のB）
- ⑤ のぼりきったところで左折すると教育学部入り口。（星ヶ丘駅より10分程度）

名古屋駅 → (名古屋市営地下鉄東山線「藤が丘」行き 約20分, ¥270) → 星ヶ丘駅

各会場図

教育学部棟3F



B307講義室：全体会（開会・シンポジウム），総会，研究発表A

B308講義室：研究発表B

C310講義室：研究発表C

C311講義室：研究発表D

D314講義室：研究発表E

プログラム

全体会：シンポジウム(10:10～12:00)

人がつながる出来事としての音楽体験 —商業音楽と学校音楽の違いを通して考える—

現代の情報・消費社会において、私たちは様々な仕方でもとのつながりを求めている。子どもたちもまた、同じ課題を抱えて同じ社会に生きている。しかし、そのつながりをどのように作るかという仕方において、現代日本の子どもたちは、例えば SNS や動画サイトなど、学校の日常とは別の「世界」を使っているように見える。またそれは、彼らの音楽にまつわる消費活動の仕方にも表れているように見える。

今大会ではこの事象に焦点を当て、商業音楽の世界で生じていることをてがかりに、子どもたちが求めている音楽体験の内実を議論してみたい。音楽の授業を子どもたちがつながる出来事にしたと願う教師にとって、本テーマは価値ある議論を起こす可能性をもっているのではないだろうか。

【シンポジスト紹介】

話題提供：油井 誠志(あぶらい・じょうじ)

エイバックス・エンタテインメント株式会社 レーベル事業本部スペシャルプロジェクトユニット ゼネラルプロデューサー。
国立音楽大学 音楽デザイン学科卒業

これまで映画、映像作品、演劇などへの楽曲提供や、自身のユニット musicscape で活動する一方、1999 年よりインディーズレーベルでの制作・宣伝・営業、2001 年よりエイバックスグループにて音楽配信ビジネスおよび携帯電話を中心としたコンテンツプロデュース、プロモーションに携わる。2007 年から制作部へ転身、シンガーソングライターからバンドやアイドルまでジャンルを特定せずコラボレーションなど社内外横断してのプロジェクトに取り組んでいる。また中学、高校の卒業式歌、専門学校、大学での講義、ワークショップなど多方面でも活動中。

司会・指定討論者：小池 順子(千葉経済大学)

指定討論者：竹内 貞一(東京未来大学)

研究発表A (B307講義室) 座長 : 三村 真弓(広島大学) ・ 津田 正之(国立音楽大学)

1. 「教育音楽」という用語の使用に関する研究 —明治期から大正期の音楽雑誌を中心に—
山本 真紀 (小田原短期大学)
2. 熊本県山鹿市の八千代座における戦前のラジオ中継演奏会の研究
佐藤 慶治 (精華女子短期大学)
3. 古川小学校「ふしづくりの教育」における児童の創作
太田 正清 (元 中国学園大学)
4. 学習指導要領にみる[共通事項]の課題
山中文 (椋山女学園大学)
5. 直観と思考にみる音楽の教育的意義に関する研究
辻 勇介 (広島大学大学院)
6. 新学習指導要領を批判する —小学校音楽科を中心に—
吉田 孝

研究発表B (B308講義室) 座長 : 山田 聡 (茨城県水戸生涯学習センター) ・ 太宰信也(国立音楽大学)

1. マリンバを素材とした「音楽づくり」の実践的研究における一考察
—心の結びつきをつよめる「音楽づくり」への可能性—
徳田 典子 (金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校)
2. 文化的側面の理解を深める鑑賞領域の実践研究
—「テクスチュア」を指導内容とした中学校における《フーガ》の鑑賞を通して—
多賀 秀紀 (富山大学)
3. 中・高等学校吹奏楽部において望まれる外部指導者像
新見 瞭 (広島大学大学院)
4. 高校生の音楽鑑賞時における「音楽の要素」の認知
—自由記述による「感想文」の分析を通して—
原 大介 (茨城大学大学院・お茶の水女子大学附属高等学校)
5. アマチュア混声合唱団における学習達成意識と学習行動の関連
小坂 光 (広島大学大学院)

研究発表 C (C310 講義室) 座長 : 磯田 三津子 (埼玉大学) ・ 竹内 貞一 (東京未来大学)

1. 音楽教育関係誌にみられる音楽科成立以前のアメリカ音楽教育の動向
— *Music Supervisors' Bulletin* 及び *Music Supervisors' Journal* に着目して —
山辺 未希 (広島大学大学院)
2. カンボジアの新たな芸術科シラバス構築に関する研究
—『初等科芸術教育支援活動』関係者へのインタビューを通して—
山本 千恵 (広島大学大学院)
3. スウェーデンの課外文化学校及び課外音楽学校の現状と課題
—インクルーシブな音楽学習を目指して—
松本 進乃助 (広島大学大学院)
4. 知的障害特別支援学校における新学習指導要領「音楽科」について
毛利 光男 (茨城大学大学院・茨城県立つくば特別支援学校)
5. 特別支援教育・高等部重複障害学級における「ふしづくりの教育」の実践(2)
松下 友紀 (広島県立西条特別支援学校)
吉富 功修 (広島大学名誉教授)
三村 真弓 (広島大学)
6. 特別な支援を要する子どものリコーダー指導に関する一考察
池田 康子 (早稲田大学大学院)

研究発表 D (C311 講義室) 座長 : 小池 順子 (千葉経済大学) ・ 三戸 誠 (国立音楽大学)

1. 色彩と音楽の情緒性を生かした音楽表現の可能性
桶田 加代 (千葉市立柏台小学校)
2. コンテンポラリーダンサーが音から刺激を受けて動く際の意識に関する研究
—コンテンポラリーダンサーの身体知に着目して—
藤井 菜摘 (広島大学大学院)
3. モデリング (Modeling) の使用に関する記号論的分析
—弦楽器セクション指導における基礎的实践を通して—
齋藤 紘希 (広島大学大学院)
4. 音楽を学習する大学生の音楽聴取に関する実態調査
—サウンドスケープデザインとしての実態に着目して—
前田 智哉 (広島大学大学院)
5. 音楽科教員養成課程における器楽の授業研究
明本 遥 (広島大学大学院)
竹澤 栄祐 (埼玉大学)

研究発表E (D314 講義室) 座長： 福島 さやか (福岡女学院大学) ・ 高見 仁志 (仏教大学)

1. トーンチャイム演奏を用いた学習から得られるもの—音楽を形づくっている要素の指導のために—
小林 恭子 (目白大学)
前田 菜月 (目白大学)
2. 保育者養成校における音楽的表現力の育成と ICT の効果的な活用
計良 洋美 (九州女子大学・中間市立中間東中学校)
3. 「さくらさくらんぼ」のリズム運動における音楽的効果 —A 保育園の実践を通して—
門脇 早穂子 (園田学園女子大学)
4. 幼稚園の歌唱活動における「表現する過程」—個別の歌声録音をもとに—
水崎 誠 (東京学芸大学)
5. 保育者養成校における音楽の指導法に関する一考
—アクティブ・ラーニングによる音楽実践の例示を中心に—
二宮 貴之 (聖隷クリストファー大学)

発表要領

- 発表：20分間，質疑応答：5分間，発表者交替・準備：5分間
円滑な進行にご協力お願いいたします。
- 会場には、PC用のプロジェクター、スクリーン、音声のスピーカー出力の準備があります。
PC, 接続アダプター, その他の特別な機器等は、発表者各自でご準備下さい。
- 当日の配付資料がある場合は、あらかじめ印刷の上、ご持参下さい。
例年、多くて1発表につき30部程度です。